

## 見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和4年12月20日 NO.9

今町中学校 立会演説会

## 「金の卵」を失わないために

見附市小学校校長会 会長 後藤 正美



「先生はいいぞ。給料はいいし、夏休みはあるし、5時になれば帰れるし、先生様だ。正美、先生になれ！」

これは、私がまだ幼い頃、亡き祖母に口癖のように言われていた言葉です。もちろん、それが理由で教員を目指したわけではありませんが、あれから半世紀、世の中の様子は変わりました。

いつ頃からでしょうか、大人は「待つことができない社会」をつくってきたように思います。結果をすぐに求め、教員からもおおらかさを奪っていると感じます。立ち止まって話を聞いてくれる教員を、寄り添ってくれる大人を子どもたちは求めていると思うのです。

教員は、授業力・人間力を伸ばすための努力を惜しんではいけません。時代に即した指導法を学び続けることは責務です。しかし、子どものためだからといって業務を増やし続け、「不夜城」と呼ばれる学校が、未来の学校に相応しいのか冷静に考える必要があります。教育が受け継いできた大切な部分を守りながら、「金の卵」である若手教員が安心して勤務できる環境をつくることは、私たち現役教員一人一人の責任です。

教員の多忙化が周知され、全国的にも教員離れが進んでいます。新任校長時の懇親の席で、「うちの大学生の子が教員を目指したいと言っているのです。」との相談を受けました。「素晴らしいですね。やりがいのある仕事ですよ。」と私が答えると、その方は「大変過ぎるから絶対やめさせます。どうしたらいいのでしょうか。」という相談だったのです。親心なのでしょうが、こうした状況では教員を目指す若者がますます減少していきます。定数の教員希望者が集まらず、新採用教員も配置できない「欠員」状態で始業式を迎える県もあると聞きます。

毎年実施している教育活動は、5年先10年先を見据えたときに教育効果と業務負担のバランスがどうなのか、「学校の当たり前」から改めて見直す必要があります。「教育のプロである私たちにしかできないことは何か」を見つめ直し、「すぐに変える」部分と「時間をかけて改善する」部分の両方で見直しを図りたいものです。

学校の働き方改革とは、教員本来の職務に専念するための業務改善です。教員本来の仕事に対する考えまでブレてはいけません。よい授業づくりに向けた時間を生み出し、立ち止まって話を聞ける教員となるべく、各校の業務改善を一層進めて参りましょう。

## 巻頭写真に寄せて = 生徒会「立会演説会」で考えた =

◇今年度の師がくは、今町中学校を担当させてもらった。研究主任のM先生に「該当授業だけではなく、一日、学校の様子を見せて欲しいので、教務室に座席をお願いできませんか」と話したら、快く教務室に席を設けてくれた。12回の訪問は、教務室で先生方の雰囲気を十分に感じて過ごすことができた。小学校教員だった私は「中学校は教科が違えば話し合ったり、授業を見合ったりは少ないのだろう」と勝手に思っていたが、職員間で話し合う姿が多く雰囲気が実にいい。授業も教科部だけでなく、学年部の先生方も参観をされて良い職場である。◇さて、教務室の黒板に、今日・明日の予定や職員の動静が書かれているが、11月末の訪問日、黒板は「生徒会演説会」と記されていた。お願いをして、参加をさせてもらった。生徒会役員は、会長・男女副会長、応援団長の4つの役職に立候補があり、候補者は「みんなで作る今町中を」「今よりも楽しい学校を」「全員仲がいい学校に」等の公約を熱く訴えた。責任者もその職に候補者が相応しいかを訴えた。驚いたのは壇上の候補者たちばかりではない。選挙管理委員長は挨拶で「後3年で、18歳です。選挙権が…、よく聞いて…」の話が立派。この話が効いた？のか、生徒(有権者)は、話をよく聞いていて質問も出た。その後、市の選管から借りた実際の投票用具を使い、上写真のように、厳正な投票が行われた。◇大人の選挙は、生活や身近な問題への訴えが弱いのか、「投票に行っても」の気持ちなのか、選挙の度に、投票率が下がり続けている。中学生の生徒会選挙に学び、広報や政見放送、選挙カーでの訴えも良いが、以前のような「立会演説会が有効なのではないか」と真剣に考えた。



## コラム =今町中学校で、先生方の指導力に学ぶ=

① N教諭；体育



② 倒立前転示範



③ 支え方説明



④ はね跳び示範



⑤ K教諭；音楽



◇今町中学校の師がくの授業について述べる。学年部・教科部で、常に話し合い連携し、生徒を共通理解した上で、レベルの高い教科指導が行われていた。その様子を、技能教科を中心に写真で紹介したい。写真①-④はN教諭の体育の器械体操。①真剣な表情の生徒たち。その視線の先は②倒立前転の示範演技をするN教諭。③この技の支え(補助)の立ち位置の説明。④跳び箱上で、はね跳びの示範演技。教師が技を実際にやって見せることでコツがつかめたり、私も「出来たい」との意欲を生んでいた。⑤音楽の合唱コンクール曲のパート練習指導のK教諭。この後、合同(全員)で歌ったのだが、指揮者へ指揮をやって見せての熱い指導が行われた。⑥家庭のファイルカバー作りの縫い方を個別指導するK教諭。ICT活用で型紙作りや見本となる作品を事前で作る等、授業準備が凄い。⑦美術の絵文字作品の仕上げを指導するE教諭。⑧国語の「意見文」の教材をICT活用で授業を行うK教諭。⑨数学「方程式」のK教諭。⑩数学「1次関数」のD教諭。数学の両教諭の授業は、他とともに主体的に学び合う班学習を見た。⑪社会の地理学習で、資料をもとに考える生徒を机間巡視で確認するK教諭。すべての授業で、生徒の目線に立ち、きめ細かい授業が行われていた。今町中は、生徒も教師も最高です。(こ)

⑥ K教諭；家庭 ⑦ E教諭；美術 ⑧ K教諭；国語 ⑨ K教諭；数学 ⑩ D教諭；数学 ⑪ K教諭；社会



## 4時から夢塾 「算数；『愉しさ』を生む授業づくり」

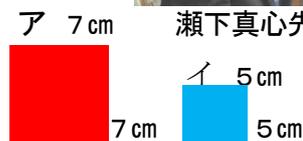
第12回は、11月30日(水)に、新潟大学附属長岡小学校の瀬下真心先生から、名木野小学校4年2組で「算数；面積」の示範授業とミニ講座で、授業改善のための指導（『愉しさ』を生む授業づくり）を頂いた。



瀬下真心先生

### 1 授業の様子 「4年：面積」

(1) 本時の主眼 2つ正方形の重なっていない部分の面積の差を話し合う中で、どんな重ね方をしていても面積の差は同じになる



ことを理解し、見出した結果の妥当性をひき算のきまりを使って確かめることができる。

(2) 展開の概要 T1：アとイの面積の差はいくつでしょう。

C： $(7 \times 7) - (5 \times 5) = 24$ で、面積の差は $24 \text{ cm}^2$ です。



T2：2つの正方形を重ねても、アとイの面積の差は $24 \text{ cm}^2$ になる。重ね方を変えても差は $24 \text{ cm}^2$ になるのかな？ → (追求課題) ◎ アとイの面積の差は、 $24 \text{ cm}^2$ になるのか。

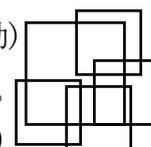


T3：正方形の重ね方を変えたときのアとイの面積の差を調べてみましょう。

C：配付されたワークシートを使い、一人で、仲間を考える。(活動)

T4：なぜアとイの面積の差は、いつも $24 \text{ cm}^2$ になるのでしょうか。

(ICTを活用し、ひき算のきまりに着目させる。→考えの可視化)



自由に重ね方を変えて考える。

### 2 ミニ講座 「算数授業の(一般的な)流れ」で説明あり

(1) 課題の提示・教師がねらいをもって提示する課題。問いを感じる課題を。

(2) 追求課題(◎)の設定・ズレが生まれるしかけを導入にしこむ。

→ 子どもの問題意識を基に表現され、学級で共有された問題。

(3) 解決の見通し・追求課題(◎)に対して、解決の方法や道筋を方向づけること。

(4) 自力解決・まず自力で解く。机間巡視や指導で、考えの見取りと表現力を高める声かけを。

(5) 集団解決・考えを出し合い、統合化、一般化を図る。(話し合い活動) → 「練り上げる」

(6) 生かす・まとめ・問題が解決したら習得を使い、適応や活用問題を。まとめは◎と正対を。

(7) ふりかえり・分かったことや自分の考えがどうかわったのか等、「4つの視点」で書く。



<参加者の声> ・授業の流れで、大切にしたいことを丁寧に教えてもらい参考になった。

- ・子どもの言葉を拾い、生かす課題提示や見通しを持つ、まとめるなど、大変勉強になった。
- ・ワクワクする課題提示で、子どもが動き出す場面を見ることができて、とても参考になった。
- ・重ねた図形の面積の差という課題はなかなか出せない。教師の深い単元・教材理解があった。
- ・附属の先生による勤務校での授業は参観し易く学びを得る貴重な機会。今後も続けて欲しい。

## 4時から夢塾 「先生、何もしていませんでしたよね。」

第13回は、12月8日(木)に、見附中学校の多田 茂 校長先生から「私が考える組織作りとリーダーの役割」を演題に指導を頂いた。

### 1 SLと新幹線 (アサヒビール中興の祖：樋口廣太郎氏より)

○ 新幹線は全車両が起動し、同じ方向のベクトル。学校現場もこれを大事にしたいもの。→ その中で、一人一人の主体性を大切にしたい。

○ トップダウンで始まり、ボトムアップで取り組む学校経営を目指す。

### 2 7分間の軌跡・日本の新幹線の清掃作業(JR 東日本テクノハート TESSEI)を称えた言葉

○ 限られた時間の中で妥協を許さない仕事为新幹線の定時運行を守り、乗客が安心して利用できる乗り物にしている。→高い評価をされ、注目を集めている。

### 3 町屋の形さま巡り (吉川美貴著：村上の町おこしドキュメンタリー)

○ 吉川氏に学び、やれる人で先ずは始める。→校務分掌を立候補で決定。  
→「プロジェクトを動かしてくれるキーマン(主任)」

### 4 トランザクティブ・メモリー(ダニエル・ウェグナーが提唱した組織学習に関する概念)

○ 組織内の情報の共有化で大事なことは、組織全体が同一知識を記憶することではなく、「組織の誰が何を知っているか」を、組織の全員がよく知っていることである。

### 5 堀 勝名 (江戸時代中期の細川家の家老：藩政改革を推進した人)

○ 財政再建、行政機構の整備、刑法草書の制定、藩校時習館の創設等・・・

○ 老中；松平定信に「郡政や市政、財政運営等の秘訣」を尋ねられた堀は  
→「知りませぬ。担当奉行に聞いて・・・」，「なら、家老の仕事は・・・？」に  
「彼らを気持ちよく働かせること。任せられるから意欲的に・・・」と答えた。

○ 各チーム(分掌)でプランが作りを。チーム毎に主体的なマネジメントを。

### 6 令和4年度の活動より (「地域の元気は見附中が創る」を合言葉に)

○ 見中スタンダード・・・「三つのチームによるプロジェクト制」

・ Society 5.0 知・高い志で学び、互いに高め合う。→対話のあるハイブリットな授業等。

・ Social Capital 徳・他者や地域と協働して主体的に行動し Social Capital や自己肯定感を高める。

・ Smart Wellness 健・心身の「健幸(Smart Wellness)」を目指して、価値ある生活を実践する。

### 7 山本五十六 「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

○ 若い頃、公開授業を見た人に言われた「先生、何もしていませんでしたよね。」を、授業実践でも、校長としての学校経営についても大事にしたい。



多田 茂 先生



### <参加者の声>

- ・ 論があり、学校現場に具体的に取り入れていることが大変勉強になった。
- ・ 組織作りの大切さを再認識した。職員がビジョンと見通しが持てるよう工夫していきたい。
- ・ 読書や人との出会いから学び、深い見識を自校の実践に生かされていることに感銘を受けた。
- ・ トップダウンで始まりボトムアップで達成させる。組織作りも授業作りも意識していきたい。
- ・ 自校の役割や組織を見直したい。そういう目で、職員を見て助言できるリーダーになりたい。

# 12月

# 科学教育部



《今月の1枚》  
セグロセキレイ 見附中学校屋上にて

## 第58回新潟県いきいきわくわく科学賞

見附市児童生徒科学研究発表会で7作品が推薦され、「新潟県いきいきわくわく科学賞」に応募しました。次の通りに入賞しましたので紹介します。(敬称略)

### 新潟日報社賞

<小学校高学年(5・6年)の部>

|                             |       |    |       |
|-----------------------------|-------|----|-------|
| 植物の水の吸い方の研究パート3<br>-蒸散との関係- | 今町小学校 | 6年 | 石田 悠真 |
|-----------------------------|-------|----|-------|

### 優秀賞

<小学校中学年(3・4年)の部>

|                 |       |    |       |
|-----------------|-------|----|-------|
| よく回るコマを作ろう パート2 | 見附小学校 | 4年 | 滝沢 健剛 |
|-----------------|-------|----|-------|



石田さんの発表の様子  
(第58回見附市科学研究発表会より)

<中学校物理・化学の部>

|                 |      |    |      |
|-----------------|------|----|------|
| 汚れを落とす洗い方part 2 | 西中学校 | 2年 | 堀 喜一 |
|-----------------|------|----|------|

<中学校生物・地学の部>

|                  |       |    |      |
|------------------|-------|----|------|
| 新潟県の海水の研究 Part 4 | 今町中学校 | 2年 | 関 美惺 |
|------------------|-------|----|------|

### 奨励賞

<中学校物理・化学の部>

|                                      |       |    |        |
|--------------------------------------|-------|----|--------|
| 味噌汁の冷め方の考察<br>~具の種類やお椀の大きさによる冷め方の違い~ | 見附中学校 | 1年 | 高橋 岳城  |
| より効果的な発電方法                           | 西中学校  | 1年 | 太田 皓斗  |
| 身近なものの弾性変形                           | 南中学校  | 2年 | 本田 野の香 |

日常生活に存在している科学を調べたり、様々なメディアなどから興味をもったことを調べたりと、研究のきっかけはたくさんあります。科学研究で大切なことは、目的をもって、調べたいことや知りたいことを解き明かしていくことです。

科学研究の過程では、条件を制御して調べることと、結果を表やグラフなどにまとめ関係性を調べることが重要です。時には、繰り返し実験をするなど納得いくまで追究することも必要になります。

見附市の科学研究の内容については、これから各校に配布する「わたくしたちの科学研究 第58集 2022」に掲載しています。ご覧をいただいて、今後の指導に役立てていただければと思います。過去の「わたくしたちの研究」と、「いきいきわくわく科学賞」の研究冊子も保管していますので、来年度の研究テーマの設定に、ぜひ活用ください。

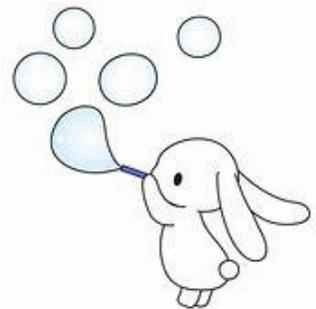
# 科学の公園

## シャボン玉は屋根まで飛ぶのか？

「♪シャボン玉飛んだ、屋根まで飛んだ…♪」という童謡があります。強風で「屋根そのものが飛んだ」のではなく「シャボン玉が屋根の高さまで飛んだ」という意味です。しかし、この童謡の歌詞のような状況は、普通はあり得ません。

シャボン玉遊びは、通常は子どものはく息(呼気)で行います。呼気には約4%の二酸化炭素が含まれ、さらにシャボン液自体の重さもあるので、周囲の空気よりもかなり重いです。従って自発的な浮揚力が発生することはなく、何らかの「上昇流」がない限り、シャボン玉は、地面に向かってゆっくり落ちます。童謡では「♪か～ぜか～ぜ、吹くな…♪」と歌っていますが、風がなければシャボン玉は決して屋根の高さまで飛びません。

童謡のイメージが強いせいか、シャボン玉は「どんどん高く飛んでいくもの」と思い込んでいる子どもが多いです。風がない環境(例えば無風の教室内)では、呼気を使った通常のシャボン玉は、100%下に向かって落ちていくのを見て、子どもたちは驚くはずで



## 水素のシャボン玉は「飛ぶ」

試験管に、ガラス管付きゴム栓をつけておきます。水素は軽いので、ガラス管の先からどんどん逃げていきます。ガラス管の先端にシャボン液をつけると、すぐにシャボン玉は膨らみます。最初のうちは空気も混ざっているようで、管から離れても、机上や床に向かって落ちていきます。しかし、水素の濃度が上がると、急上昇するようになります。

## 水素の燃焼実験

実験で作ったシャボン玉の中身が水素であることを確かめるには、燃焼させてみるのが一番良いです。しかし、シャボン玉がガラス管についた状態で、燃焼させるのは非常に危険です。炎がガラス管を逆流して、三角フラスコの内部の水素と空気(酸素)の混合物が、爆発することがあります。

より安全に実験するには、市販のボンベを利用します。そのうえで、上昇するシャボン玉に、柄の長いライターを近づけると良いです。結構な速さで、急上昇するので事前に練習しておく必要があります。その際、部屋は暗くしておくとう�효果的です。

参考文献 理科の教育 11月号



シャボン玉に着火



水素が燃焼